



柵津御堂ワインだより vol.02

NETSU MIDO

発行/2021年9月1日 発行者/御堂地域活用構想推進協議会 会長 別府 英宣
(協議会事務局: 東御市6次産業化推進室 電話: 0268-75-2016)

柵津御堂地区の今についてお知らせします

協議会において非農用地の活用について検討しています

御堂地域活用構想推進協議会では、御堂地域活用構想の推進を図るとともに、ワイン用ぶどう団地の南に設定される約1ヘクタールの非農用地について、活用方法や運営方法等を検討しています。
本年度は、4月・8月に役員による会議(理事会)、6月に構成員全員による会議を行っており、9月以降も検討を重ねていく予定です。方向性が明らかになりましたら、改めて柵津御堂ワインだよりにてお知らせいたします。

生産者紹介②

『柵津御堂ワイン用ぶどう団地』を『東御市のシンボル』に

ヴィラデストワイナリー こにし とおる 小西超 さん

●小西さんが東御市に来たきっかけを教えてください。

当時、私は大手酒造メーカーに勤めていました。ある時、東御市(当時は東部町)でワイナリー建設のプロジェクトが立ち上がり、私もそのプロジェクトの一員となりました。ワインについて学ぶ必要があった私はご縁があり、麻井宇介*1先生と出会い、先生のもとでワインについて学びました。先生は「この地はワイン用ブドウにとって日本有数の場所である」と仰り、ワイナリー建設を心待ちにしていました。

ところが突如、事情によりワイナリー計画が撤回。私も意気消沈していましたが、先生の「銘醸地は人間が作るもの。ここでは世界に通用するワインができる」という言葉を思い出しました。既にワイン用ブドウを栽培していた玉村豊男とともにワイナリーを立ち上げ、この地を盛り上げる決心をしました。ワイナリー設立の準備段階である2002年に、滋賀県から移住してきました。

*1 麻井宇介…本名浅井昭吾。ワイン醸造家で評論家。シャトー・メルシャン 勝沼ワイナリーの元工場長等も務め、各地で欧州系品種の栽培を進める等、現代日本ワインの父と称される。

●麻井先生とは、あの「ウスケボーイズ*2」の麻井宇介先生ですね。

そうです。私は、麻井先生の最後の弟子です。先生からワインの思想を学ぶなかで、自分でワインを作りたいと強く思うようになりました。

*2 ウスケボーイズ…麻井氏にワイン造りを師事した3人の軌跡を描いたノンフィクション。2010年には映画化され、日本ワインにフォーカスされた作品に対して話題を呼んだ。

●御堂への思いを聞かせてください。

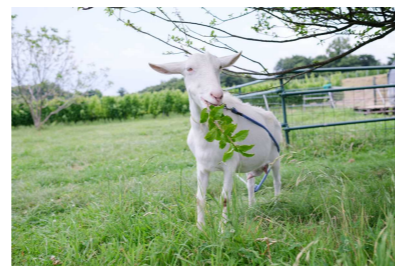
私自身、20年前からこの地で穴を掘り、土壌成分を調査したりなどして御堂に関わってきました。今、ようやく願いが叶った気持ちで、とても感慨深いです。

●地元の皆さんへメッセージをお願いします。

御堂地区は本州でも最大級といえる、まとまったワイン用ぶどう畑です。これは東御市のシンボルになり、ブランドにもなります。御堂から作られるワインを御堂ブランドとしてアピールしていきたいです。また、8つの事業者が参加しているので、お互いが協力して、栽培面、販売面、イベント面など多角的な角度から盛り上げて、地域を活性化させていきたいと考えています。

ワイン畑はとても美しいです。是非、地元の方々にもこの美しい景色を見に来ていただきたいと思っています。

聞き手: 米田 直人 (東御市地域おこし協力隊・ワイン&ピアミュージアムコンシェルジュ)



▲ヴィラデストワイナリーのかわいい看板やぎ「ヤギ子」さん

ヴィラデストワイナリー
住所: 東御市和6027
電話: 0268-63-7373
営業時間: 10時~17時
定休日: カフェのみ水曜日
(ショップは16時まで営業)
※12月下旬~3月上旬頃まで冬季休業

観光面から柵津御堂を考える

Vol1 柵津御堂とワインツーリズム

一般社団法人信州とうみ観光協会 事務局長
早川 一夫



▲ぶどう畑でランチを楽しみながら生産者の話を聞く

ワインツーリズム*という言葉をご存じでしょうか。その名の通り、「ワイン」と観光を意味する単語「ツーリズム」をつなげた言葉です。ワインは単に飲んで楽しむだけではなく、観光を掛け合わせることで、その魅力はいっそう増すという考えから生まれた言葉です。

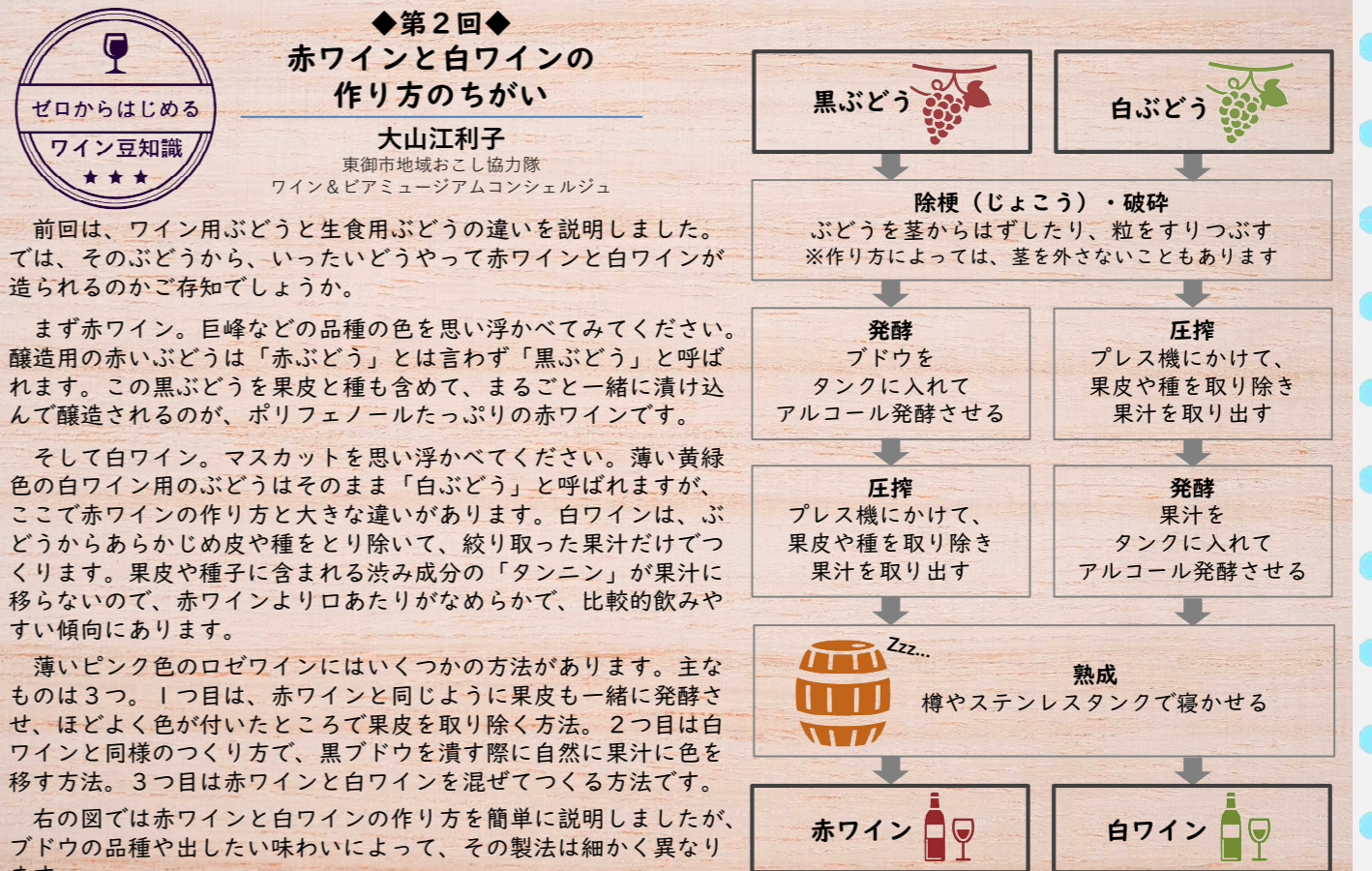
ワインに興味がある方が、実際に産地に足を運び、ワイン用ぶどうの育つ景観を眺めながら歩いて楽しんだり、農作業や収穫の体験をしたり、ワイナリーの見学を通してワインの造り手の話を聞いたり、地域の食材を使ったランチを味わいながらワインを飲んだり、お土産としてワインや地場産品を購入したり…そんな魅力を体験できる可能性を持っているのがワインです。

また、生産者の顔や、育つ環境が見えるワインは、そのワインがもつストーリー性がいっそう伝わり、購入者として、またファンとして、その地域のワインの消費を増加させ、ワイン生産の増加に繋がり、そしてその流れは継続していきます。

加えて御堂を含む柵津地区には、歴史的な資産があふれています。ワインツーリズムに地域の文化や歴史を体験する機会や、地域住民のお話を聞く機会をプラスすることで、地域の魅力を知ってもらえる機会が増えるとともに、移住や定住にもつながっていくと考えています。

そんなポテンシャルがワイン、そして柵津御堂には秘められているのです。

*ワインツーリズムは「一般社団法人ワインツーリズム」の登録商標です。



9月に入ると、いよいよ市内各地でワイン用ぶどうの収穫が始まります。御堂にワイン用ブドウが初めて植えられたのは平成31年4月。ワイン用ぶどうは、苗木が植えられ、実がなるまでにおよそ3年の時間を要します。最初はわずかかもしれませんが、この秋、御堂ではじめてのワイン用ぶどうができるのがとても楽しみです!